

## 令和 5 年度 清原南小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重を基盤に，知・徳・体の調和のとれたたくましい児童の育成を目指し，日本の伝統や文化を大切に，平和な国家の形成者として，21世紀を担う心身ともに健康で心豊かな子供を育成する。

- |          |                         |
|----------|-------------------------|
| たくましい子   | 元気に運動し，健康でたくましい心と体をつくる。 |
| 思いやりのある子 | ルールやマナーを守り，協力して生活する。    |
| よく学ぶ子    | 基礎・基本を身に付け，進んで学習する。     |

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

恵まれた自然環境と，147年の長い歴史と伝統を有する本校に勤務することに誇りと責任をもち，子供への愛と同僚との和をもって児童・保護者・地域の方々と共に歩み，自らの資質・能力を高めるとともに自己変革に努め，教育目標達成のために全力を尽くす。

また，先人に感謝しつつ，母校への誇りと自己の尊厳を高めるような教育活動を展開し，持続可能な社会の創り手となる子供たちが「未来を生き抜く人間力」を身に付けるため，知・徳・体のバランスのとれた力の育成に取り組む。そのために，児童・教職員・保護者・地域が連携し，多様な活動を通して地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 地域に開かれた地域とともにある学校づくりの推進
- (2) ○成長し続ける基盤となる知・徳・体のバランスのとれた力の育成
- (3) ○新しい時代を生きるために必要な資質・能力の育成
- (4) 児童の様々な状況に対応した指導・支援の充実
- (5) 学び続ける教職員としての資質・能力とチーム力の向上
- (6) 業務の効率化と勤務時間を意識した働き方改革の推進

[清原地域学校園教育ビジョン]

自己を見つめ，自己のよさを生かした夢の実現に向けて，主体的に取り組む児童生徒の育成 2nd stage  
～人との豊かなかかわりを通して～

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，同施行規則，新小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「とちぎ教育振興ビジョン」，宇都宮市教育委員会の「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「令和5年度指導の重点」を踏まえて，公教育の立場を堅持し本校の教育目標達成のため，調和と統一ある教育課程を編成する。
- (2) 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列して，それぞれが充実した調和と統一ある教育課程を編成する。
- (3) 「うつのみや学校マネジメントシステム」の結果を受け，本年度の学校教育目標・学校経営の方針を踏まえて，実態に応じた指導が計画的に行われるようにし，PDCAサイクルを確立して改善を図る。
- (4) 「地域とともにある学校づくり」を推進するため，地域協議会との連携により，地域の特性や願いを基に児童に必要な資質・能力を明確にし，地域の人的・物的資源を活用して，社会に開かれた教育課程を編成する。

## 5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
  - ・教職員の人権意識の高揚を図り，同僚並びに児童の人権を尊重した職場づくりを進める。
  - ・教職員評価制度を活用して，個人及びチームのスキルアップを図る中で，学校運営への積極的な参画を目指す。
  - ・教職員のカリキュラムマネジメントに対する意識の高揚を図り，児童に求められる資質・能力を教科等横断的な視点に立って育成できるよう，教育活動の質の向上に努める。
  - ・積極的な授業公開を通して児童の学習上の課題解決の糸口を考えたり，効果的な取組を共有したりし，教職員としての資質・能力の向上と学び合う教師集団の育成を図る。
  - ・学校 HP，各種便り等による情報発信を積極的に実施して，保護者や地域との連携を図り信頼関係の構築に努める。
  - ・デジタル機器の活用，対話を基にしたOJTと協働体制の推進，業務改善委員会の改善案取組並びに地域協議会と連携した外部人材の活用によって業務の効率化を図る。

- ・出退勤時刻管理システムによる勤務時間の自己管理や最終退勤時刻の設定、リフレッシュデーの設定、休暇等を取得しやすい勤務状況の構築を図り、勤務時間を意識した働き方改革を推進する。
- 清原地区地域学校園構想と小中一貫教育の取組に基づき、小中9年間を見通した視点で効果的な取組や活動を検討し、授業改善並びに共通実践を行う。

#### (2) 学習指導

- ・図書や資料等の教材、1人1台端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図る。
- ・授業改善の推進にあたり、「宇都宮モデル」(「はっきり」「じっくり」「すっきり」)における各過程の質的向上を図る。
  - 「はっきり」・追究意欲を高める、見通しを立てる、各教科等の見方・考え方を働かせる
  - 「じっくり」・協働的に課題解決をする時間確保、適切な評価と細やかな指導・支援
  - 「すっきり」・まとめと振り返りでの言語活動の充実、習得した知識の活用と定着
- ・特別支援教育の視点を取り入れた課題提示や学習展開を工夫し、個別最適な指導の充実を図る。
- ・根拠を基にした自分の考えをもたせ、その考えを安心して伝え合い、考えを深めたり広げたりすることができるよう教師のコーディネート力の向上を図る。
- ・SDGsや郷土学習、人権教育、主権者教育等の現代的な諸課題に対応していくため、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に努める。
- 「清原っ子家庭学習の約束」を通して、保護者の家庭学習の啓発を図るとともに、1人1台端末を活用しながら、家庭学習の取組を奨励し、確実な習慣化を図る。

#### (3) 児童生徒指導

- ・確かな児童理解に基づく、教師と児童の信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育成し、児童一人一人にとって魅力にあふれ安心して過ごせる学校づくりを推進する。
- ・いじめや不登校を生み出さないよう、規範意識や思いやりの心を育成し、すべての児童にとって居がいのある学級づくりに努める。悩みやストレスを抱えたときには、相談して助けを求める援助希求能力を高める。
- ・「いじめ防止基本方針」に基づき、児童がいじめを自分たちの問題として捉え、その解決に向けて主体的に行動できるよう、指導の充実を図る。
- ・特性のある児童の指導・支援については、保護者と児童理解、指導の在り方について共通理解を図るとともに教育支援委員会を開催して組織的な対応に努める。さらに、個々の状況に応じてSC、関係諸機関と連携して対応する。
- ・児童が活躍できる場と自らの成長を振り返る場を積極的に設定して、一人一人のよさや努力を認め励ます指導により児童の自己有用感や自己肯定感、たくましさを育む。
- ・児童の発想を活かした行事運営や異学年交流活動を推進し、児童の自主性や主体性の育成とリーダーシップ及びフォロワーシップの醸成を図る。
- 「清原地域学校園の方針・約束・一日」を基に、教職員が同一の指導を行い、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。

#### (4) 健康（体力・保健・食育・安全）

- ・「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の有機的な関連を図り、デジタルを効果的に活用しながら児童が心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力の育成を図る。
- ・教育活動全体を通して、児童の体力の状況に応じた体力向上に日常的に取り組み、運動に親しみ、体力を高めようとする資質・能力の育成を図る。
- 体力テストの結果を基に、地域学校園全体で児童が主体的に運動に取り組む授業内容を組織的に検討して実践する。
- ・自己の健康課題を把握し、生活習慣の改善や健康の保持増進に努めることができるよう、家庭と連携して健康管理能力の育成を図る。
- 地域学校園統一の食育に関する取組を実践し、家庭と連携しながら望ましい食習慣の形成及び食に対する感謝の念の育成を図る。
- ・教育活動全体を通して、児童自らが危険を予測し回避するなど、自らの命を守り抜くための判断力と実践力の育成を図る。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながらじっくり考え, 進んで学習に取り組んでいる。」 児童肯定的回答 85%以上</p>	<p>①1人1台端末を効果的に活用し, 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ, 主体的・対話的で深い学びの実現に努める。</p> <p>②図書や資料等の教材や, 1人1台端末を効果的に活用し, 主体的に問題解決に取り組めるように支援する。</p> <p>③話合いの時間を確保し, 協働的に課題解決に取り組めるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答 85.2%であり, 目標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・1人1台端末を積極的に活用し, 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させられるように努める。 ・学習課題や解決への見通しをはっきりさせるめあてを提示し, 児童が主体的に学習に取り組める授業を実践する。 ・話合いの時間を確保する他に, 学習形態の工夫をすることで, 協働的に課題解決に取り組めるようにする。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 児童肯定的回答 85%以上</p>	<p>①道徳的価値を自分との関わりの中から捉えられるような道徳の授業を実践し, 生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。また, 「ふわふわ言葉, ちくちく言葉」など相手目線に立った言葉遣いができるように指導し, 円滑な人間関係の構築を図る。</p> <p>②係活動や当番活動等, 周囲のために活動し称賛する場を積極的に設定し, 自己有用感を高める。</p> <p>③読み聞かせボランティアだけでなく, 教職員による読み聞かせも行い, 本とのふれあいをさらに充実させる。併せて, 読書啓発活動やファミリー読書を推進し, 豊かな心を育む。</p>	A	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 84.4%であり, 目標を達成することができなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・道徳的価値を自分との関わりの中から捉えられるような道徳の授業を実践し, 生命を尊重する心や人を思いやる心の涵養を図る。また, 「ふわふわ言葉, ちくちく言葉」を考え, 相手目線に立った言葉遣いができるように指導し, 円滑な人間関係の構築を図る。 ・人権週間の心ぼかぼか運動で, 各クラスからメッセージカードを集めて, 1階ホールへ掲示することで, 児童の自己有用感や肯定感を高められるようにする。 ・児童同士の呼び方について, さんをつけて呼ぶよう通年で指導する。 ・読み聞かせボランティアだけでなく, 教職員による読み聞かせも行い, 本とのふれあいをさらに充実させる。併せて, 読書啓発活動やファミリー読書を推進し, 豊かな心を育む。</p>
	<p>A 3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は, 夢や目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」 児童肯定的回答 80%以上</p>	<p>①本時のめあてを明示し, 課題に対して見通しをもたせ, 解決に向けて粘り強く取り組むことができる授業を展開できるよう工夫する。</p> <p>②発達段階に合った検定カードを利用し, 授業で振り返りの時間を設けることで自主性を育みながら目標達成に向けて取り組み成就感が味わえるようにする。</p> <p>③各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め, 称賛できる機会を積極的に設け, 児童の自己肯定感を高める。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は 82.2%であり, 目標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・本時のめあてを明示し, 課題に対して見通しをもたせ, 解決に向けて粘り強く取り組むことができる授業を展開できるよう工夫する。 ・発達段階に合った頑張りカードを利用し, 授業で振り返りの時間を設けることで自主性を育みながら目標達成に向けて取り組み, 成就感が味わえるようにする。 ・各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め, 称賛できる機会を積極的に設け, 児童の自己肯定感を高める。</p>

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活をしている。」 児童肯定的回答 90%以上</p>	<p>①感染症対策への取組を継続しながら、教育活動に取り組む。 ②自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けるため、交通安全・生活安全・災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施する。登下校については、一斉下校時と班長会議の時間を活用して、交通ルールや安全な登校の確認を行う。 ③各学年で決められた、生活目標と関連を図りながら学校の決まりや安全な過ごし方を定期的に確認する場を設け、けがのない安全な生活についての意識付けを図る。 ④家庭と連携を図りながら、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。 ・おにぎりの日やお弁当の日の実施</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率は90.1%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・感染症対策への取組を継続しながら、教育活動に取り組む。 ・自分の身は自分で守る意識を高め、適切な判断力と行動力を身に付けるため、交通安全・生活安全・災害安全について、避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施する。 ・登下校については、一斉下校時の時間を活用して、交通ルールや安全な登校の確認を行う。 ・各学年で決められた、生活目標と関連を図りながら学校の決まりや安全な過ごし方を定期的に確認する場を設け、けがのない安全な生活についての意識付けを図る。 ・家庭と連携を図り、バランスのとれた食事や望ましい食生活の醸成を図る。 おにぎりの日やお弁当の日を実施する。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、自分のよさや考えを生かしたり、周りと協力したりして生活をよりよくしようとしている。」 児童肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学級活動の時間にキャリアパスポートを活用することにより、新たな学習や生活への意欲につながり、将来の生き方を考えたりできるようにしていく。 ②きよなんドリームプロジェクト「私の夢」への取組を通し、友達や自分のよさ、努力する姿に目を向けるきっかけとし、お互いに励まし合えるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は83.6%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・全職員でキャリア・パスポートの考え方について共通理解を図り、同一歩調で取り組むことを通して、学習の様子や活動の振り返りを積み重ねて自己理解を深めたり、将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成していく。 ・今年度同様、「私の夢」は継続して掲示し、お互いに励まし合える環境を醸成する。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 児童肯定的回答 90%以上</p> <p>A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 児童肯定的回答 80%以上</p>	<p>①1人1台端末を活用したり、英語によるやり取りを中心とした授業を展開したりすることにより、児童が英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養う。 ②ALTの活用を積極的に進め、生きた英語に触れる機会の充実を図る。 ③中学年のローマ字の授業から高学年に向けて、継続して「書くこと」を意識した指導を取り入れていく。</p> <p>①生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」、道徳の地域教材を通して、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ②各教科・領域において地域の教育資源や資料等を積極的に活用し、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は79.7%であり、目標を下回った。 【次年度の方針】 ・積極的なALTの活用を進め、児童の生きた英語に触れる機会を充実させるとともに、一人一台端末を活用しながら、英語によるやり取りを中心とした活動を工夫することで、英語に慣れ親しみ、進んで英語を使おうとする態度を養う。 ・中学年のローマ字学習や高学年の外国語で、簡単な語句や基本的な表現を書く活動を積極的に取り入れ、英語を使って表現しようとする意欲を高める。</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答は81.4%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・生活科や社会科、総合的な学習の時間の「宇都宮学」、道徳の地域教材を通して宇都宮のよさへの理解を深め、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。 ・各教科・領域において地域の教育資源や資料等を活用し、今後も積極的に地域と連携して活動ができるようにしていく。</p>

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、デ ジタル機器や図書等を学習に 活用している。」 児童肯定的回答 85% 保護者肯定的回答 75%以上</p>	<p>①教職員が、授業で効果的にデジタル 機器を活用できるよう、ICT支援 員と連携した校内研修等を実施し て教職員の技能向上を図り、児童が デジタル機器を適切に活用できる ように、授業の改善に取り組む。 ②各教科等の年間指導計画に図書の 利用を適切に位置付けるとともに、 学校図書館司書業務と連携して計 画的な図書資料の充実と活用を図 る。 ③デジタル機器を活用する際、情報を 適切に扱うことができるよう、児童 への情報モラルの指導に努めると ともに、併せて保護者への啓発を行 う。 ④1人1台端末や学校図書館を活用し た学習の様子や、活動の様子を、各 種たよりやホームページで積極的 に発信する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は81.4%、保護者の 肯定的回答は89.4%であり、児童は目標 を下回った。 【次年度の方針】 ・教職員がICT機器を効果的に活用でき るよう、校内研修等を充実させること と、児童がICT機器に適切に活用できる ような授業改善に、引き続き取り組む。 ・学校図書館司書業務との連携を密に 取りながら、計画的な学校図書館の活用 と図書資料の充実を図る。 ・児童が情報化社会に主体的に参画で きるように、デジタルシティズンシップ 教育を意識した指導に努めていく。 ・1人1台端末や学校図書館を活用した 学習の様子や、活動している様子を、各 種たよりやホームページで積極的に発 信し、啓発を図る。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、『持 続可能な社会』について、関 心をもっている。」 児童肯定的回答 80%以上</p>	<p>①校内研修等を通して、教職員の「持 続可能な社会」への認識を高め、全 教育活動において命やものを大切 にする意識を育み、児童の「持続可 能な社会」への実践力を養う。 ②社会情勢を踏まえながら、学校行事 や委員会活動などの学校生活にお いて、ゴミの減少やリサイクル、緑 化活動を積極的に行い「持続可能な 社会」に参画しようとする態度を養 う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答86.6%であり、目標 を達成することができた。 【次年度の方針】 ・命やものを大切にする意識を育み、児 童の「持続可能な社会」への実践力を養 えるよう、各教科・領域の年間指導計画 に確実に位置付ける。 ・各委員会活動の取組や各学級での一 般ごみや給食の際に出るごみの分別な ど、児童の実体験と結び付けた活動を行 うことで、「持続可能な社会」に参画し ようとする態度を養う。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、 特別な支援を必要とする児童 の実態に応じて、適切な支援 をしている。」 教職員肯定的回答 95%以上</p>	<p>①児童指導主任や特別支援コーデ ィネーターを中心に、職員会議時の児 童に関する情報交換を活用して特 別な支援を必要とする児童の実態 や支援の手立てについて外部の専 門機関との連携を含めて共通理解 を図り、組織的な支援に当たる。 ②児童の記録やQ-Uアンケート、ケ ース会議の内容等を活用し、個に応 じた支援の下に分かりやすい授業 を展開する。 ③特別支援学級に加え、通常の学級に おいて特別な支援を必要とする児 童についても、個別の指導計画を作 成し、それに基づいた指導を継続的 に行うとともに児童の実態に応じ た支援の仕方を検討する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100.0%であ り、目標を達成できた。 【次年度の方針】 ・児童指導主任や特別支援コーデ ィネーターを中心に組織的な支援を継続し ていく。 ・学年内で日常的に児童指導面での情 報を共有し、児童理解を深める。 ・児童の記録やQ-Uアンケート、ケ ース会議の内容等を活用し、個別最適な学 びが実現できるよう教材研究を行うこ とで、分かりやすい授業を展開する。 ・個別の指導計画を作成し、それに基づ いた指導を継続的に行う。 ・外部の関係機関と連携して支援を継 続する。</p>

<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 児童肯定的回答 90%以上</p>	<p>①いじめは絶対に許されないという考えの下、「清原南小いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止のための組織的・計画的な取組を推進する。 ②いじめアンケートや教育相談を通して、いじめの早期把握に努めるとともに、被害者の立場に立って継続的に関わることにより、確実な解消を目指す。 ③「いじめゼロ集会」や標語募集、関連する道徳の授業実践等、学校のいじめ未然防止の取組を積極的に発信し、保護者の理解と協力を得られるようにする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 97.3%であり、目標を達成できた。 【次年度の方針】 ・「清原南小いじめ防止基本方針」に基づいていじめ防止のための組織的・計画的な取組を推進する。 ・定期的に位置付けられたいじめアンケートや教育相談を実施し、組織的にいじめの早期発見・早期対応に努める。 ・児童会主催による「いじめゼロ集会」やいじめゼロ宣言、関連する道徳の授業の実践等を通して、学校のいじめ未然防止の取組を積極的に発信し、保護者の理解が得られるようにしていく。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」 教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>①各種集会や帰りの会等で互いのよさや努力を認め、称賛できる機会を積極的に設け、児童の自己肯定感を高める。また、児童から悩み相談があったときは、校内の支援体制を整え、即日解決に努める。 ②Q-Uを生かした学級集団の実態把握と分析を行うとともに、教育相談の結果を生かし、学業指導の考えに基づいた、帰属意識と規範意識を高める学級経営を行う。 ③新たな不登校を生まない取組を推進し、スクールカウンセラー等を活用する等児童理解に努めるとともに、保護者と児童の様子についての情報を共有し、共に支援していく関係を構築する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 96.2%であり、目標を達成できた。 【次年度の方針】 ・教育活動全体を通して、児童の自己肯定感を高める場を積極的に設定する。 ・Q-Uを生かした学級集団の実態把握と分析を行うとともに、教育相談の結果を生かした学級経営を行う。 ・外部機関との連携やスクールカウンセラー等を活用しながら児童理解に努めるとともに、保護者と情報を共有し、共に支援していく関係を構築していく。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】</p>	<p>①昨年度実施した行事等の反省を生かし、児童主体の活動が推進できるよう改善を図り計画を見直すことにより、児童がいいきと活動できる工夫をする。 ②教育相談や日常の個別指導などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ③自己の成長が感じられるように、活動のめあての確認や振り返りを通して、自己の成長を自覚し、児童の意欲向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 95.1%、保護者肯定的回答は 85.3%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き行事等の反省を生かし、児童主体の活動が推進できるよう改善を図り計画を見直すことにより、児童がいいきと活動できる工夫をする。 ・教育相談や日常の個別指導などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ・自己の成長や達成感が感じられるように、活動のめあての確認や振り返りを通して、自己の成長を自覚し、児童の意欲向上に努める。</p>
<p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>全体アンケート「児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり問題を解決しようとしたりして児童が楽しく学校生活を送れるようにしている。」 児童肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<p>①昨年度実施した行事等の反省を生かし、児童主体の活動が推進できるよう改善を図り計画を見直すことにより、児童がいいきと活動できる工夫をする。 ②教育相談や日常の個別指導などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ③自己の成長が感じられるように、活動のめあての確認や振り返りを通して、自己の成長を自覚し、児童の意欲向上に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 95.1%、保護者肯定的回答は 85.3%であり、目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き行事等の反省を生かし、児童主体の活動が推進できるよう改善を図り計画を見直すことにより、児童がいいきと活動できる工夫をする。 ・教育相談や日常の個別指導などを継続して行い、よりよい人間関係の構築に努める。 ・自己の成長や達成感が感じられるように、活動のめあての確認や振り返りを通して、自己の成長を自覚し、児童の意欲向上に努める。</p>

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」「教職員は、一人一人が理解できるように教材を工夫するなどきめ細かな指導をしている。」 児童肯定的回答 90%以上 保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>①1人1台端末を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業改善の推進を図る。</p> <p>②発達段階に応じた学び合いの形態を工夫するとともに、児童の実態に即した適切な指導ができるよう教材研究に努める。</p> <p>③本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組むことができるような授業を工夫する。</p> <p>④学習の終末にねらいに即した振り返りを行い、自己の学習状況を振り返って自分の成長を実感させるとともに、次時の課題を明確にし、学習意欲の向上を図る</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.2%、保護者の肯定的回答は 77.6%と、保護者は目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・一人一台端末などの ICT 機器の効果的な活用や積極的な授業公開、校内研修を通じ、授業改善や教員の資質・能力の向上を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業の展開に努める。 ・本時のめあてを明示し、課題に対して見通しをもたせ、解決に向けて粘り強く取り組んだり、学習の終末に振り返りを行うことで、自己の学習状況を振り返って自分の成長を実感させたりしながら、次時への学習意欲の向上を図る。 ・児童の学習の様子や活動の様子を、各種たよりやホームページで積極的に発信し、啓発を図る。</p>
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>①全職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を果たしながら協働的に取り組むことにより教育目標の達成を目指す。</p> <p>②教育活動全体を通して積極的に関わることで同僚性を発揮し、互いの持ち味が活かせる「チーム学校」を構築する。</p> <p>③報告・連絡・相談を徹底するとともに、学年主任会や学年会で連携を図りながら学校全体で情報を共有し、組織的に対応に当たる。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 92.3%であり、目標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・全職員が学校経営方針や学校課題を理解し、それぞれの役割を果たしながら協働的に取り組んだり、ベテランから若手への教育技術を継承したりすることを通して教育目標の達成を目指す。 ・教育活動全体を通して積極的に関わることで同僚性を発揮し、互いの持ち味が活かせる「チーム学校」を構築する。 ・報告・連絡・相談を徹底するとともに、学年主任会や学年会で連携を図りながら学校全体で情報を共有し、組織的に対応に当たる。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>①リフレッシュデー（全職員・学年・個人）を設定し、教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率化に努めるとともに、休暇等を取得しやすい勤務状況を構築する。</p> <p>②校務分掌や学年・ブロック単位の組織で、業務の精選を行うとともに、ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、業務の軽減や効率化を図る。</p> <p>③金曜日課など、日課表を工夫して、事務処理や教材研究等の時間を確保する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 76.9%であり、目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・リフレッシュデーを月 2 回設定し、教職員一人一人が勤務時間を意識し、業務の効率化に努めるとともに、休暇等を取得しやすい勤務状況を構築する。 ・校務分掌や学年・学校単位の組織で、業務の精選を行うとともに、ミライムや学習情報システム等のネットワークソフトウェアを活用し、業務の軽減や効率化を図る。 ・金曜日課や臨時日課など、日課表等を工夫して、事務処理や教材研究等の時間を確保する。</p>

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。」 児童肯定的回答 80%以上 教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>①清原地域学校園教育ビジョンに基づき、人との豊かな関わりを通して自らを見つめ直し、主体的に取り組む児童生徒の育成を重点として小中一貫教育を実践する。</p> <p>②各校の効率的な学校運営を支援するため、学校一人配置職員の連携を密にし、協働体制を構築する。</p> <p>③学校園の研修や情報交換等を通して、清原地域学校園としての学習面や児童指導面での向上を図るとともに、実践の様子をホームページや各種たよりで発信、周知に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.9%であり、目標を達成することができた。 教職員の肯定的回答は 73.1%であり、目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・清原地域学校園教育ビジョンに基づき、人との豊かな関わりを通して自らを見つめ直し、主体的に取り組む児童生徒の育成を重点として小中一貫教育を実践する。 ・各校の効率的な学校運営を支援するため、学校一人配置職員の連携を密にし、協働体制を継続していく。 ・学校園の研修や情報交換等を通して、清原地域学校園としての基礎学力の向上や基本的な生活習慣の向上を図るとともに、実践の様子をホームページや各種たよりで発信、周知に努める。 ・地域学校園の各部会の進捗状況について情報交換をする機会をもつ。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 地域肯定的回答 85%以上</p>	<p>①地域協議会や学校支援ボランティアを中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。</p> <p>②地域や企業との関わりを保ち、デジタル機器を活用して取り組む等、取組内容や方法を工夫しながら実践するとともに、その活動の様子をホームページや各種たよりで発信し、保護者・地域の学校教育への理解と協力を得られるようにする。</p> <p>③地域クリーン作戦や感謝の会、見守り立哨指導等の実施により、児童の望ましい成長を図る。</p>	<p>【達成状況】 地域の肯定的回答は 100.0%であり、目標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・地域協議会や学校支援ボランティアを中心に地域と学校が目標を共有し、一体となって教育活動や環境整備の充実を図る。 ・地域や企業との関わりを保ち、デジタル機器を効率的に活用して取り組む等、取組内容や方法を工夫しながら実践するとともに、その活動の様子をホームページや各種たよりで発信し、保護者・地域の学校教育への理解と協力を得られるようにする。 ・地域クリーン作戦や感謝の会、見守り立哨指導等の実施や学習ボランティアの活用により、児童の望ましい成長を図る。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 教職員肯定的回答 95%以上 保護者肯定的回答 85%以上</p>	<p>①月に一度の全教職員による安全点検並びに生活当番の巡視の機会等を利用した日常的点検を充実させ、危険個所の迅速な対応に努める。</p> <p>②危機管理マニュアルを全体で確認し、避難訓練や引渡し訓練等を通して不測の事態への対応に備える。また、児童自らが危険を予測し回避するなど、命を守るための行動力を育成する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 96.2%、保護者の肯定的回答率は 91.1%であり、目標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・月に一度の全教職員による安全点検並びに教職員の巡視の機会等を利用した日常的点検を充実させ、危険個所の迅速な対応に努める。 ・危機管理マニュアルを全体で確認し、避難訓練や引渡し訓練等を通して不測の事態への対応に備える。また、児童自らが危険を予測し回避するなど、命を守るための行動力を育成する。</p>

<p>6-(2) 学校のデジ タル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート「私は、授業 や業務の改善にデジタルを積 極的に活用している。」 教職員肯定的回答 80%以上</p>	<p>①教職員が、授業で効果的にデジタル 機器を活用できるよう、ICT支援 員と連携した校内研修等を実施し て教職員の技能向上を図る。 ②授業等で児童がデジタル機器に慣 れ親しみ、有効に活用できる方法に ついて情報交換をする。 ③プログラミング教育実践のために ICT支援員と協力し、プログラミ ング教材を活用しやすい環境を整 える。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答 100.0%であり、 目標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・教職員が、授業で効果的にデジタル機 器を活用できるよう、ICT支援員と連 携して普段の学習指導を行うとともに、 教職員の技能向上を図る。 ・授業等で児童がデジタル機器に慣れ 親しみ、有効に活用できる方法について 情報交換をする。 ・プログラミング教材を活用し、ICT支 援員と協力を図りながら、プログラミ ング教育の実践をする。</p>
<p>小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時 と場に応じたあいさつをして いる。」 児童肯定的回答 90%以上 地域肯定的回答 85%以上</p>	<p>①年間を通して児童会が主体となり 「あいさつ運動」を行う。計画委員 会を中心に全児童が積極的にあい さつできるように工夫した実践を 展開する。 ・ 標語の募集 ・ 啓発ポスターの作成 等 ②発達段階に応じて挨拶の意義や心 的効果について指導し、自発的な挨 拶の啓発に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.1%、地域の肯 定的回答は 95.5%であり、目標を達成で きた。 【次年度の方針】 ・児童会が主体となり、全校児童で「あ いさつ運動」を継続して実施する。 ・発達段階に応じた挨拶の意義や効果 について指導を行い、自発的な挨拶の啓 発に努める。</p>
<p>小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等</p>	<p>B2 児童は、きまりやマナ ーを守って、生活をして いる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、き まりやマナーを守って、生活 をしている。」 児童肯定的回答 85%以上</p>	<p>①「清原地域学校園の方針・約束・一 日」を教室内に掲示し、日常の指導 に活用する。 ②生活当番班の担当期間を2週間と し、児童の実態に基づいて設定した 「生活目標」の下、全職員の共通行 動によって児童の基本的な生活習 慣の確立を図る。 ③決まりやマナーを守った行動に対 し、児童が互いに認め合う機会や教 師の称賛を行うことによって規範 意識を高める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 92.1%であり、目 標を達成できた。 【次年度の方針】 ・今年度同様、「清原地域学校園の方針・ 約束・一日」を基に、日常の指導の充実 を図っていく。 ・児童の実態に基づいて設定した「生活 目標」の下、全職員の共通理解により同 様の指導を行うことで、児童の基本的な 生活習慣の確立を図る。</p>
<p>本校の 特色・課 題等</p>	<p>B3 児童は、家庭学習の習慣 を身に付けている。 【数値目標】 全体アンケート「私は、宿題 や自主学習をすることが習慣 化されている。」 「自分の子供は、宿題や自主 学習をすることが習慣化され ている。」 児童・保護者肯定的回答 80%以上</p>	<p>①予習復習の大切さを理解し、発達段 階に応じて「自分で課題を設定する 力」や「見通して学習する力」を身 に付けられるよう、学級懇談や個人 懇談、学年だより、「清原っ子家庭学 習の約束」を通じて保護者と情報を 共有し、家庭学習の啓発を図る。 ②学級で、自主学習のよい取組を紹介 し、児童のよさや努力を認めて称賛 する機会を積極的に設け、自主学習 への意欲付けを図る。 ③学期毎に家庭学習週間を設け、家庭 での学習習慣の定着を図る。 ④1人1台端末を活用して個に応じた 指導を実践し、基礎的な知識及び技 能の定着を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 83.0%、保護者の 肯定的回答は 74.0%と、保護者は目標を 下回った。 【次年度の方針】 ・授業参観や個人懇談などの機会に、 「清原っ子家庭学習の約束」を話題にし、 引き続き保護者と情報を共有し、協力を 得ながら家庭学習の啓発を図る。 ・発達段階に応じて自主学習のやり方 を教えたり、よい取組を広めたりする 等、児童のよさや努力を認めて称賛する 機会を積極的に設ける。 ・家庭学習がんばり週間を実施し、家庭 と連携を取りながら、家庭学習への意欲 付けや習慣化を図る。 ・1人1台端末やA Iドリルを活用し、 個に応じた基礎的な知識及び技能の定 着を図る。</p>

<p>B4 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、休み時間や放課後などに進んで運動している。」 児童肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童が能力に応じて進んで運動できるような運動機会の工夫や拡充・日常化に努める。</p> <p>②各種検定（水泳・鉄棒・なわとび）の実施や「<u>うつつのみや元気っ子プロジェクト</u>」のミニマム達成を目指した<u>体育の授業実践、検定表の地域学校園での見直し等</u>、連携を図った取組を推進する。</p> <p>③デジタル機器を活用し、模範的な動きを児童に示すことで分かる授業を展開するとともに、運動への意欲付けを図る。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 77.3%であり、目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・毎週月曜日は、職員が業間に外へ出て児童と運動し、体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。 ・「とち木っ子体力雷ジグ広場」を活用して、楽しみながらさまざまな運動遊びにチャレンジできるようにする。 ・デジタル機器を活用し、模範的な動きを児童に示すことで分かる授業を展開するとともに、運動への意欲付けを図る。</p>
<p>B5 教師の授業力を高めるため、互いに授業を公開し、教師としての資質・能力の向上に努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、校内研修を通して学び合い、自らの指導に生かしている。」 教職員肯定的回答 90%以上</p>	<p>①学校課題における研究の方針を提示し、育てたい児童像を明確にするとともに、各教職員の専門性を取り入れて考えを深め合えるような校内研修や授業研究会を推進する。</p> <p>②研修や研究会だけでなく、ブロックや学年内における話し合いの場を多くもつことでOJTを活性化し、同僚性を高める。</p> <p>③社会情勢を踏まえ、地域学校園と適切に連携を図りながら研修を推進する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100.0%と、目標を達成することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度の学校課題「主体的・対話的な学習に取り組む児童の育成～ICT等、情報手段を適切に活用した学習活動の充実～」での校内研修や授業研究で得た成果を基に、次年度も、ICT等を活用した授業作りを日々の実践に生かしていく。 ・ブロックや学年内における話し合いの場を多くもつことでOJTを活性化し、互いを高め合える学校風土を醸成していく。 ・次年度も継続して、地域学校園と適切に連携を図り研修を推進していく。</p>
<p>B6 本や地域、友達とのふれあいを通して人間関係を深め、心の豊かな児童を育成している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、読み聞かせ・農園活動・登下校の見守りの時など地域の方とふれあうことは楽しい。」 児童肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学級文庫を新しく入れ替える等、読書の質を高めたり、図書室の「情報センター」としての機能を活用したりすることで、本とのふれあいを促進する。</p> <p>②<u>あいさつ運動や米作り体験、水辺の楽校体験等の体験農業活動を通して地域とふれあい、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養う。</u></p> <p>③縦割り班活動や学校行事の内容を再検討し、児童同士の関わりを大切にしながら思いやりの心や協調性を育む。</p> <p>④地域協議会と連携して学習ボランティアを充実させ、教育活動を豊かなものにする。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答は 87.1%であり、目標を達成できた。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校図書館の「情報センター」「学習センター」としての機能を活用することで、本とのふれあいを促進していく。 ・ボランティア、担任、担任以外の教師による読み聞かせを継続し、本とふれあう機会を設ける。 ・体験活動を通して地域の人々や自然とふれあい、地域のよさを理解するとともに、誇りある地域の一員としての自覚を養えるようにしていく。 ・縦割り班活動や学校行事の内容を、児童同士の関わりを大切にした取組になるよう再検討し、思いやりの心や協調性を育む。 ・地域協議会と連携して学習ボランティアの活用を図り、教育活動をより豊かなものにする。</p>

### 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・26項目中18項目で肯定的回答の割合が数値目標を上回っている。児童の評価では、A6・B4を除いた全ての項目で8割以上の肯定的回答を得ており、児童の自己肯定感が高いと思われる。
- ・A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」の項目では、児童の肯定的回答は数値目標に届かなかったものの8割を超え、教職員も保護者も昨年度より向上した。
- ・A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校経営の充実を図っている。」の項目は、児童・教職員・保護者・地域の全てで数値目標が高い。今後もコロナ等の感染状況に対応しながら、引き続き連携・協力して活動の充実を図っていきたい。

○B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」の項目は、児童・教職員・保護者・地域の全てで市の肯定的回答を上回った。あいさつの大切さについて適宜指導するだけでなく、小中一貫あいさつ運動や児童会中心でのあいさつ運動などを実施し、自発的なあいさつの定着を図っていききたい。

・課題となる項目としては、A2「児童は、思いやりの心をもっている。」の項目で、児童の肯定的回答が84.4%で市の平均と比較して約6ポイント、また、教職員・保護者の肯定的回答も昨年度より下回った。道徳科の授業や朝・帰りの会等、様々な時間を通して学校全体で思いやりのある言動を認め、励ますとともに、保護者や地域との連携を図り児童の思いやりの心を育てていきたい。

・A12「教職員は不登校を生まない学級経営を行っている。」についても児童・教職員・保護者の肯定的回答が昨年度より下回った。外部機関やスクールカウンセラーやQ-U等を活用して児童理解に努めるとともに、保護者と情報を共有し問題の早期発見・早期改善に努めたい。

・今年度はICT等、情報手段を適切に活用した学習活動の充実を図り、主体的・対話的に学ぶ児童の育成に努めてきた。今後も分かる授業や児童へのきめ細やかな指導についてさらに研究を進めていきたい。

## 7 学校関係者評価

・小中一貫教育として地域の中学生を含めたあいさつ運動を継続していることが素晴らしい。挨拶については、各家庭の声掛けも重要である。特に元気のない児童への声掛けや見守りも心がけるなど、今後も家庭と連携をとり挨拶ができる児童を育ててほしい。

・英語を使ったコミュニケーションについては、個人差もあり、時間も必要であると思われる。

・宇都宮のよさを学ぶ際は、座学だけではなく、現地に足を運び体感し学んでほしい。

・思いやりの心を育てるとともに暴言を発するとどうなるかなど、具体的な指導もしてほしい。

・働き方改革の推進に関しては、教職員のチームで協力し合うことにより働き方の改善を図ることが理想だが、仕事量を考えると難しいことだと思われる。

・何事も結果を求めることが必要だが、求めすぎず、のびのびと子どもの良さを伸ばしてほしい。

・学校運営に関して活気あるイメージが感じられる。学校と地域がパートナーとして連携して学校マネジメント強化に努めたい。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

今年度はコロナ前と比較し、学校行事や校外学習を工夫・改善しながら実施できたことが、学校教育活動の充実につながったと評価されたのではないと思われる。

次年度については以下について取り組んでいきたい。

・「挨拶」については、児童会や地域学校園でのあいさつ運動等の機会も活用し、引き続き自発的な挨拶の啓発に努める。

・「宇都宮のよさ」や「持続可能な社会」への関心については児童も教職員も肯定的回答が市の平均より下回っている。校内研修等を通して教職員の「宇都宮のよさ」や「持続可能な社会」への認識を高める。また、授業や行事等で「宇都宮のよさ」を取り上げる場を設けて児童の認識を高めるとともに、全教育活動において命やものを大切にする意識を育み、児童の「持続可能な社会」への実践力を養っていく。

・デジタル機器の活用については、保護者の肯定的回答が昨年度より大きく上回るなど理解を得ている。今後は、学校生活の中での効果的な活用についてさらに工夫・改善を図りたい。

・いじめ防止の指導については、定期的に行っているアンケートやハートタイム（教育相談）の機会のみでなく、日頃からいじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、校内で行っているいじめ防止対策の活動内容を学校HPやさくら連絡網等で積極的に発信し関心を高め、保護者や地域の皆様への理解と協力を得ていきたい。

・チームとして業務の効率化に努めてきた結果、職員の肯定的回答は昨年より向上している。子どもと向き合う時間を確保するために業務時間の効率化や精選、見直しを図り、教職員一人一人が勤務時間を意識して限られた時間の中で最大の効果が得られるよう工夫・改善をしていく。

・今年度は体育館長寿命化改修工事もあり、各行事をリモートや映像公開、場所を分割するなど工夫して実施することができた。また、地域に対して学校教育活動を公開する機会も増え、子どもたちの様子を見ていただくことにより、地域として何ができそうか考えていただきながら活動に取り組むこともできた。今後も学校HPや各種たより（さくら連絡網で配信）の一層の充実を図り、学校行事だけでなく日々の教育活動においても積極的に情報を発信していくことで、本校の教育目標や教育活動を家庭や地域に理解していただき、連携・協力を進めていきたい。